

ティと呼ばれる、基本的・標準的な半導体だ。ネクスペリアの製品には、1個の価格が数セント～1ドル程度と低いものもあるが、同社の半導体は、「自動車産業のコメ」とも言うべき重要な役割を演じている。

ネクスペリアは毎年約1000億個のディスクリート半導体を生産し、その内の約50%を、欧州などの自動車や自動車部品のメーカーに供給している。たとえば同社の約6000種類のディスクリート半導体は、フロントガラスに雨滴が落ちたことを感知してワイパーを動かすセンサーや、クーラー、エアバッグ、窓ガラスの開閉装置、運転補助機構など、自動車の様々な部分に使われている。

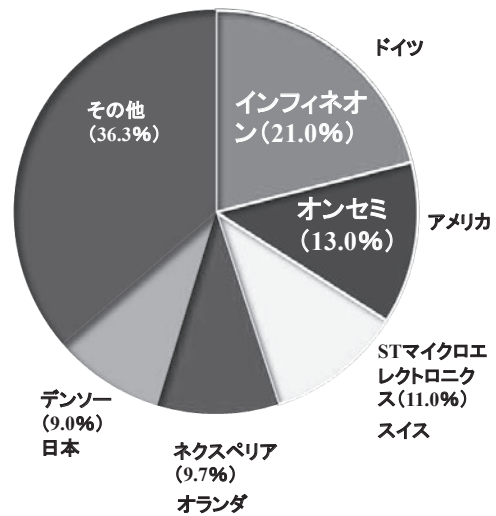
欧州で生産される乗用車1台につき、ネクスペリアのディスクリート半導体約500個が使われているケースもあると言われる。業界関係者は、「全ての自動車メーカーが、ネクスペリアの半導体を使っている」と語る。つまり同社は、自動車産業にとって欠かせないサプライヤーである。同社の製品は、産業機械や家電製品にも使われている。

同社はドイツのハンブルク工場と英国のマンチェスター工場で生産したシリコン・ウエハーなどの部品を中国東莞市の工場に送り、中国でパッケージングと呼ばれる半導体の組み立て、加工やテストを行った後、欧州などの自動車メーカー、自動車部品メーカーに輸出していた。その理由は、中国の人件費が欧州よりも低いので、生産費用を抑えられるからだ。ネクスペリアのパッケージングとテストのための設備の80%は中国にあり、同社の半導体の約70%が中国経由で、顧客に送られていた。

ネクスペリアの2025年5月15日の発表によると、2024年の年間売上額は20億600万ドル（3090億円）だった。世界のディスクリート半導体市場におけるネクスペリアのシェアは、2023年の8.9%から2024年には9.7%に増えた。つまり同社は、2024年の時点で自動車用半導体マーケットのシェアが世界第4位だった。

当時ネクスペリアは、「半導体市場でAI向け半導体への需要が急激に増えていることに合わせて、ポートフォリオも変化させる。将来は自動車用の半導体だけではなく、サーバー、スマートフォン、産業用機械にも力を入れる」と発表していた。

図1 世界のディスクリート半導体の主要企業のシェア（2024年）



資料：ロイター通信 2025年10月29日

<https://www.reuters.com/world/china/why-nexperia-is-centre-autos-chip-crisis-2025-10-29/#:~:text=WHY%20DO%20THESE%20CHIPS%20MATTER,global%20automotive%20discreet%20chip%20market>

ネクスペリア 2025年5月15日

<https://www.nexperia.com/about/news-events/press-releases/Nexperia-reports-resilient-2024-performance-driving-sustainable-innovation-amid-market-headwinds>

＊中国の輸出停止で独企業が生産時間短縮

ネクスペリアの半導体が自動車産業にとって極めて重要であるだけに、2025年10月4日に中国政府が同社の製品の輸出停止を発表したことは、ドイツの自動車業界、特に部品メーカーに強い衝撃を与えた。

世界最大の自動車部品メーカー、ロベルト・ボッシュ（本社・ゲルリンゲン）は11月3日、「ネクスペリアの半導体の不足により、ニーダーザクセン州のザルツギッター工場とバイエルン州のアンスバッハ工場で労働時間を短縮することを、連邦労働局に伝えた」と発表した。この内ザルツギッター工場では、1400人の従業員がエンジン制御機構を組み立てていた。ドイツ企業の経営者は従業員の労働時間短縮や、工場閉鎖などを実施する場合には、事前に連邦労働局に届け出ることを義務付けられている。

ドイツの自動車部品大手ZF（本社・フリードリヒスハーフェン）も、バイエルン州のシュバインフル